



バラの挿し木を手渡す豊永百禾さん(左から3人目)と上原諒さん(同4人目) 28日、南城市・つきしろローズガーデン

ビキニ被ばく犠牲しのぶ

「愛吉・すずのバラ」沖縄に

1954年、米国がビキニ環礁で行った水爆実験で被ばくした遠洋マグロ漁船「第五福竜丸」(静岡県焼津市)の無線長で、40歳で亡くなった久保山愛吉さんが生前、自宅の庭に植えたバラから分けられた挿し木が28日、南城市のバラ園「つきしろローズガーデン」に寄贈された。

70年の時を経て、平和について学ぶ「沖縄高校生平和ゼミナール」のメンバーが届け

た。バラは被ばくの半年後に愛吉さんが亡くなった後、妻す

平和学ぶ生徒 橋渡し

ずさん(享年72)が1993年に死去するまで形見として育てられ、「愛吉・すずのバラ」と呼ばれる。

挿し木は88年にすずさんから高知県の高校生に分けられ、同県内の各地で広く育てられている。

2019年、原水爆の廃絶を訴える全国集会在静岡市で開かれたことを記念し、挿し木は高知から再び静岡へ。今年3月、久保山夫妻の故郷・焼津市で開かれた全国高校生平和集會に参加した沖縄平和ゼミに分けられ、沖縄へ渡つ

た。

今回の挿し木は「愛吉・すずのバラ」の孫世代に当たる。ゼミの豊永百禾さん(17)と上原諒さん(12)が28日、バラ園を運営する小池喜代子さん

に手渡した。豊永さんは3月の集會でビキニ事件を学んだ。「沖縄でも被ばくした人がいたと初めて知った。教科書にもほとんど書かれておらず、知らない人は多いと思う。学校でもっと学ぶことができれば」と述べた。

小池さんは「来年にはきっと大輪の花を咲かせていると思うので、ぜひ見に来て」と呼びかけた。

(論説副委員長・黒島美奈子)

「南」
沖
「南」
本士防衛と戦争継続のため必 命を絶つ人も多かつた。